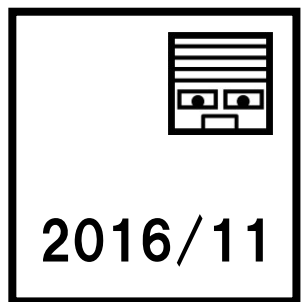




神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
 全国有数の〈社史コレクション〉を
 さらに活用していただくため、
 社史の使い方や、社史の楽しさ、
 社史情報などをお届けしていきます。



この秋、県立川崎図書館のビジネス支援など特色ある事業を習得するために、高知県の公共図書館から司書のKさんとMさんが研修に来ています。

社史のコレクションや事業について感想を聞いてみました。

「これぞ専門図書館やなあと。支柱となるコレクションは圧巻でしたし、それをビジネス支援として打ち出しているところがうまいなあ」とMさん。

「公共図書館でこれだけの社史のコレクションがあるところはめずらしいですね。高知の企業や高知県出身の実業家や技術者が登場するものも多く、郷土を飛びだして各地で活躍しよった方が、こんなにも

おるがやな、と勝手ながら心強く思いました。」とKさん。

そこで今回の「社楽」では、県民性をテーマに高知県出身の創業者が出ている社史を何冊かとりあげ、高知県出身のKさんとMさんにコメントしてもらおうことにしました。

●
 まずは何といつても、旧三菱財閥の創業者・岩崎彌太郎でしょう。幕末に土佐国（現、高知県）で地下浪人の家に生まれ、土佐藩の財政や交易等に関わり、海援隊の坂本龍馬の影響も受けました。明治維新後は海運業を手始めに、多くの事業を展開し、今日の三菱グループの礎を築き

ました。

例えば『丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史…上巻』（1993年刊）では、明治初期、東京や大阪、高知などに不動産を購入しました。「これらの不動産取得はもちろん海運業に関係のある港湾・河岸における倉庫、荷揚地、事業所等の土地家屋の取得が目的ではあった。しかし、剛腹、豪胆であった彌太郎は、当面の営業用の必要規模を超えて一括大規模に購入したことは十分想像できる。それは地主的土地投資というよりは、長期的な観点から事業規模の拡大を考え、資本を活用するという進取の思想で貫かれていたといえる。」と出ています。

Mさんは「いざつそうやなあと…。高知の言葉で『快男子』『酒豪』『頑固で気骨のある男』という意味ながですけど。

（裏面に続く）

「いざつそうやなあと」社史 ①

(表面から続く)

普通では思いつかんデカイことに打って出る気の強さが、土佐の男という感じがします。社史には載ってなかったけれど、彌太郎は酒が好きやったそうです」と言っていました。

『三菱銀行史』(1954年刊)には、次のようなエピソードが出ています。

当時の三菱の社員には階級意識の強い士族出身のものが多く、彌太郎は士族の商法を捨てて真の社員になるように、客に接するには温和謙譲であるようにと指示しています。そして、社員たちが温和な顔付で客に接し、顧客に和やかな気分を与えようという試みから、大きな「おかめの面」を入手して店舗に飾りました。社史には、当時の同行の本店営業室の壁面にかけられた「おかめの面」の写真が掲載されています。

では、Kさん、いかがでしょうか。「豪快さの中にも、商人としての冷静な判断が見え隠れしゆうかなど。おかめという遊び心を持って謙虚な姿勢を示したところは、武士のプライドから上手に切り替えちよって、さすが彌太郎やなと思います。」

産業用機械を製造する小松製作所の創立者・竹内明太郎も土佐藩の出身です。『小松製作所五十年の歩み』(1971年刊)によると、竹内明太郎は石川県などで炭坑を経営し成功します。そして、技術者の養成も急務と考え、早稲田大学の理工科の設立に多大な貢献をしたり、

高知に工業学校を設置しました。

また、国産の自動車製造の必要性も感じ、資金を提供しました。日産自動車の前身はDAT自動車ですが、DATは資金提供者の頭文字です。Tは竹内明太郎です。

「私はこの社楽に合わせて調べて初めて知ったとき、県民として心苦しいがですけど…(苦笑)まあ色々やりゆうなあと。それでも一貫して、技術者やったがですよね。龍馬といい彌太郎といい、色々やりよってもまっすぐ貫く『芯』は揺るがない。漢(おとこ)やなあって思います。地元を愛しちゆうところがまたかっこいい」とMさん。

小松製作所の事業としては、昭和初期に日本ではじめて国産ブルドーザを製造します。「他社がコストや技術の問題からトラクタ製造を試作段階で断念する中、「製作困難でわが国にはいまだ経験のないものを製作する」というコアソウルで、果敢に困難に挑戦したのである。」と『MADE IN AWAZU コマツ粟津製作所工場70周年記念誌』(2008年刊)に書かれています。

「誰もやらんこと、誰もやりたくないことをあえてやっちゃろう、ていうちよつと無茶で、でも常に心の中に熱いもんを持ちちゆうところがまさに『いごっそう』ですね。」とKさん。

「いごっそう」談義はつきないので、次号に続きます。

(高知市民図書館・村田)

(高知県立図書館・久保田)

(神奈川県立川崎図書館・高田)

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4

電話：044-233-4537 FAX：044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>